

ニーズに応じた作業受託と きめ細やかな農作業管理による高品質な米作り

国営事業により用水が安定的に供給される水田において、規模拡大や水稻の作業受託に取り組むとともに、きめ細やかな農作業管理により水稻うるち玄米の1等米比率99%以上を毎年維持し、地域を支える有数の担い手です。



国営かんがい排水事業
「**竜西地区**」昭和23～38年度
関係市町：長野県 飯田市ほか2町
受益面積：1,035ha
概要：農業用水の安定供給を図るため、頭首工を合口化し、幹線用水路を新設

国営施設応急対策事業
「**竜西地区**」平成27～34年度
関係市町：長野県 飯田市ほか2町
受益面積：703ha
概要：幹線用水路の機能の保全と耐震化のための整備

大島 浩
【長野県下伊那郡松川町】

経営面積：1.2ha
主要作物：水稻、市田柿
労働力：自家労働3名、臨時雇用5人

安定的な用水を使った高品質な米作り

平成11年に42歳で農外企業を離職し、水稻2haと作業受託1haの経営を継承して以来、「くだもの里」松川町で水稻を主体に営農に取り組む大島氏のもとには、離農等により耕作が難しくなった水田が集積されています。現在は、作付面積10ha、作業受託20haと、水稻経営は5倍、作業受託は20倍に拡大し、規模拡大を図りながら、米の品質向上にも取り組んでいます。



皇居での献穀献納式

細やかな観察と計画に基づく、労を惜しまない農作業管理により、水稻うるち玄米の一等米比率99%以上を維持しています。これらが評価され、平成28年に長野県代表として、皇居で行われた新嘗祭に精米を献納しました。

※おおしまファーム一等米比率は、過去5年の加重平均による。

労を惜しまぬ農業スタイル

作業受託では、田植等の春作業を5ha、秋作業を15ha請け負っています。秋作業は、収穫から自家ライスセンターでの乾燥調製、玄米出荷までをほぼセットで請け負い、農産物検査員の資格も有する大島氏が、JAみなみ信州のもとで検査もしています。また、委託先からの栽培歴の聞き取りや、収穫前の稲穂の実り具合の目視確認で適期収穫を行い、委託者の玄米の品質確保につなげ高い信頼を得ています。

大型農業機械を導入して、適期作業と効率化を図っています。後継者とともに、自動車整備士の資格を活かして農業機械のメンテナンスを行い、修繕コストを削減しています。



愛着がある緑のトラクター

経営の3本柱

安定した経営を行うために水稻、作業受託を補完する経営作目を模索してきました。育苗ハウスでの野菜作にも取り組みましたが、水稻作の農繁期と作業が重なったため、地域の特産品であり農作業期間が重ならない市田柿を導入することで、経営の3本柱として安定経営を確立しました。



市田柿の加工作業

市田柿は、育苗ハウスを活用した自然乾燥で生産しています。乾燥ムラをなくすため、干し柿をこまめに移動させ、太陽光を効率的に取り入れる工夫などで火力乾燥並みの加工期間となっています。

米と市田柿は「おおしまファーム」のHPでも紹介しており、丁寧な作りの市田柿は12月の1か月間で販売が終了してしまう、人気商品です。

地域の中心的担い手



後継者配偶者による収穫作業

地域の方々に支えられながら、経営ができていくことを常に意識しています。また、作業委託や農地貸借の依頼には、必ず直接会い、相手の状況を考慮して請け負う作業内容を決めるなど、丁寧な対応を行っています。

大島氏は、松川町認定農業者連絡会役員として、地域農業者の育成に尽力しているほか、後継者は町内の若手農業者が集う「若武者会」の会長を務めるなど、地域の若きリーダーとして存在感を高めています。

後継者の配偶者も「MATSUKAWA 農業女子」のコアメンバーとして活躍するなど、それぞれが地域の中心的担い手として信望を集めています。